

## 学術大会長挨拶



第5回日本糖尿病理学療法学会学術大会  
大会長 大平 雅美（信州大学医学部保健学科）

このたび、平成30年7月16日（月、海の日）に、パシフィコ横浜において第5回日本糖尿病理学療法学会学術大会を開催させていただきます。

平成26年に神戸で開催された第1回日本糖尿病理学療法学会学術集会、翌年の第2回、日本理学療法士学会の各分科学会、各部門の連合で開催された第51、52回日本理学療法学術大会内での第3回、4回と異なり、日本呼吸理学療法学会、日本心管理理学療法学会との連携により「同一会場で開催」となる合同大会形式です。

本合同大会は、「呼吸・心血管・糖尿病理学療法の一輪－臨床&学術活動－」を旗標としつつ、各学会がそれぞれのテーマを掲げて企画されます。糖尿病理学療法学会のテーマは、第4回大会の「糖尿病に対する理学療法の発展を目指して～臨床介入研究最前線～」を受け継ぎ、「糖尿病に対する理学療法～学びを更なる高みへ～」としました。

個々の理学療法士が臨床に励み、多くを学んだとしても、必ずしも理学療法が発展するというものではありません。例えば同じ糖尿病の症例でも、背景が異なり、臨床所見が異なり、重症度・合併症が異なり、個々の理学療法士がその全てを経験できるわけではありません。より良い臨床、理学療法の実現には、それぞれの症例からの学びや研究成果を共有し、次は何を学ぶかを意識しながら患者に向かう、研究に工夫を凝らす姿勢が欠かせません。理学療法の実現には、臨床、基礎研究成果の発表と討論が不可欠ですが、専門性を重んずるあまり視野が狭くなるとは賢く学び、より良い臨床経験を積むことができます。糖尿病理学療法独自の学びの場としてのみならず、呼吸、心血管糖尿病理学療法という関連領域を包含して学べる場が設けられることも大切だと考えています。

本大会の一般演題は、これまで通り口述発表あるいはポスター発表形式としますが、演題区分や発表時間・タイミングの工夫により、発表内容を予想しやすく、聞き漏らしの少ない学術大会を目指します。発表者と参加者が学びを共有し、明日からの臨床および研究に生かすことができる機会となればこの上ない喜びです。

海の日3連休、会場のパシフィコ横浜はアクセスがよく、近隣に赤レンガ倉庫、大さん橋や元町ショッピングストリートに中華街、少し足を伸ばせば八景島シーパラダイスもあり、日程が許せば、学びのみならず素晴らしい一時も過ごせることでしょう。多くの皆様と横浜でお会いできますことを運営スタッフ一同、心から楽しみにいたしております。

平成29年10月吉日\_\_